

会

報

社団法人 日本病理学会
〒113-0033
東京都文京区本郷 2-40-9
ニュー赤門ビル 4F
TEL: 03-5684-6886
FAX: 03-5684-6936
E-mail jsp-admin@umin.ac.jp
http://jsp.umin.ac.jp/

社団法人日本病理学会

第 257 号

平成 21 年 (2009 年) 6 月刊

1. 第 100 回 (平成 23 年度) 日本病理学会総会における宿題報告担当候補者の推薦について

宿題報告担当者については自薦に加えて学術評議員からの推薦を受けております。下記の要領で、宿題報告担当候補者の推薦をお願いいたします。学術評議員から推薦された候補者については、学術委員長名で推薦されている旨をご本人にお伝えし、応募されることをお勧めいたします。

推薦方法：日本病理学会ホームページよりダウンロードした所定の書式に、被推薦者名、演題名 (仮題)、簡単な推薦理由、推薦者名、などを記載のこと。

提出先：東京都文京区本郷 2-40-9 ニュー赤門ビル 4F
社団法人日本病理学会事務局

推薦締め切り：平成 21 年 7 月 31 日

本件につきましてご質問がありましたら、日本病理学会事務局または学術委員長までお問い合わせください。

日本病理学会事務局：

TEL 03-5684-6886 FAX 03-5684-6936

学術委員長 (岡田保典)：

TEL 03-5363-3763 FAX 03-3353-3290

2. 第 100 回 (平成 23 年度) 日本病理学会総会における宿題報告の募集について (公募のお知らせ)

第 100 回 (平成 23 年度) 日本病理学会における宿題報告を下記の要領により、募集いたします。

記

1. 応募資格：日本病理学会学術評議員
2. 募集人員：2 名。今回は、総会中に日本病理学会 100 周年記念事業を行なうため、宿題報告は 2 題とさせていただきます。

3. 提出書類：

- ・日本病理学会ホームページよりダウンロードした所定の書式に、応募者名、演題名、選考用抄録 (1,000 字以内) などを記載のこと。ダウンロードできない場合は、日本病理学会事務局まで請求のこと。
- ・講演内容に直接関係のある自著論文 50 編以内の一覧

- ・代表的な自著論文 10 編以内の別刷

4. 提出先：〒113-0033 東京都文京区本郷 2-40-9
ニュー赤門ビル 4F

社団法人日本病理学会事務局 「宿題報告応募抄録」と明記し、書留郵便でお送りください。

5. 締め切り：平成 21 年 8 月 31 日 (消印有効)

なお、第 100 回日本病理学会における宿題報告担当者は、平成 21 年秋の学術委員会において厳正・公明に選考し、同年 11 月の理事会審議にて決定いたします。本件につきましてご質問がありましたら、日本病理学会事務局または学術委員長までお問い合わせください。

日本病理学会事務局：

TEL 03-5684-6886 FAX 03-5684-6936

学術委員長 (岡田保典)：

TEL 03-5363-3763 FAX 03-3353-3290

3. 病理専門医試験受験資格の変更についてのお知らせ

病理専門医試験の受験に際しての剖検数について、第 98 回日本病理学会総会の理事会において審議され、総会において決定した事項をお知らせいたします。

平成 22 年度以降は原則として 40 例以上とさせていた大きくことになりました。平成 22 年度の試験については、すでに 50 例以上を目標に準備を進めている方がおられることを考慮し、50 例以上、あるいは 40 例以上と剖検講習会受講のどちらでも可とすることにいたします。剖検講習会は、来年の第 99 回日本病理学会中の病理診断講習会のプログラム内で実施いたします。平成 23 年度以降は 40 例以上と剖検講習会受講になります。したがって、平成 23 年度以降の受験希望者は、早めに受講されることをお勧めいたします。剖検講習会は、来年以降毎年実施する予定です。

4. 国際交流事業報告書について

日本病理学会では、ドイツ病理学会からの奨学金給付を受け、渡航および研究活動の支援対象者を推薦しております (現在、この事業は終了しています)。このたび、2006 年から 2 年間の活動を終えた塩沢英輔会員よりの報告書を

掲載いたします。

ドイツ派遣研究員報告： シャリテ・ベルリン医科大学
ベンジャミン・フランクリン病院病理学研究所

塩沢英輔（昭和大学第二病理）

日本病理学会ドイツ派遣研究員として2006年10月から2年間、シャリテ・ベルリン医科大学ベンジャミン・フランクリン病院（以下CBF）病理学研究所に留学しました。これは日本病理学会から推薦された若手病理医に、ドイツ病理学会が奨学金を給付し、渡航および研究活動を支援するという学術交流制度であり、ドイツ病理学会側の立場としては日本人病理研究者のための奨学金プログラム（Japan-Stipendium für deutschsprachige Pathologen, Deutsche Gesellschaft für Pathologie e.V.）とよばれる制度です。

(1) シャリテ・ベルリン医科大学ベンジャミン・フランクリン病院病理学研究所

CBFは2002年までベルリン自由大学医学部であった施設であり、その病理学教室は1984年から著明な血液病理学者Harald Stein教授によって主宰されています。

ベルリンにある2つの総合大学、フンボルト大学（1810年創立）とベルリン自由大学（1948年創立）には各々に医学部および附属病院があり、東西ドイツ統一後も首都ベルリンの医学部として併存してきました。しかし運営するベルリン州政府の財政難を理由に、2つの医学部が総合大学本体から分離され、3つの巨大な附属病院と中小の専門医療機関をもつシャリテ・ベルリン医科大学に組織移行したのが2003年です。その結果、フンボルト大学医学部附属病院はシャリテ・キャンパス・ミッテ（CCM）、自由大学医学部附属病院はシャリテ・キャンパス・ベンジャミン・フランクリン（CBF）と呼ばれるようになり、どちらもシャリテの名の下に併存する附属病院として再整備されました。現在シャリテは学生数7,500人、教職員数14,400人、総病床数3500床を数えるヨーロッパ最大の医科大学で、運営予算額、獲得研究費額もドイツの医学部の中では群を抜いています。

CBFは米国独立の祖ベンジャミン・フランクリンの名が示す通り、分断時代に米国援助で建設された大学病院です。臨床教育を重視する米国型医学校であり、CBF病理は巨大総合病院の中に一臨床部門として存在しています。これはドイツの医学部病理学教室としては特異な存在です。CBF病理には総責任者（主任教授）であるHarald Stein教授を筆頭に、教授（日本で言えば講座内教授または准教授に相当）3名、上級医（日本の助教または講師）5名、病理レジデント3-5名、PhD研究者3名、教授秘書2名、タイピスト4名、情報技術者1名、標本管理者2名の他、多数の技師が所属しています。技師は各部門（解剖、

一般、免染、細胞診、遺伝子解析、分子生物学実験室）に2-5名程度が配置され（合計20名程度）、各部門での業務に専従し、いわゆる業務ローテーションは行いません。これに私を含む外国人留学生3名と大学院生5-10名、外部資金の派遣研究者2-3名を含めると、総勢70名前後の職員が働いていました。この人員で年間24,000件の組織診と150体の病理解剖を軸に、医学部、歯学部、看護学部などの医療系学生の講義、顕微鏡実習、肉眼実習などを担当しています。

CBF病理に特徴的な施設としては遺伝子検査室が挙げられます。これはリンパ腫病理診断のためのクロナリティー解析を行うもので、専任の技師3名とクリーンベンチ、サーマルサイクラー、キャピラリーシークエンサーなどを備えた専用検査室です。これは研究用の実験室ではなく、人員と設備は基本的に造血器病理診断のためのクロナリティー解析にのみ用いられるもので、検査室内でパラフィン包埋組織からの核酸抽出、PCR増幅、電気泳動、GeneScanningが行われます。この検査室とは別に研究用実験室が3部屋あり、分子生物学研究が行える設備が全て整っています。

(2) 悪性リンパ腫病理診断の研修

CBF病理はドイツ癌基金が認定する造血器病理コンサルテーション施設です。同様の施設はドイツ国内に6ヶ所ありますが、Stein教授のベルリン・コンサルテーションはMüller-Hermelink教授のビュルツブルク・コンサルテーションと並んで最大規模のもので、この2施設でドイツ国内の造血器コンサルテーションの大半を担当しています。骨髄検体を含め年間およそ6,000-7,000例のコンサルテーション症例を解析します。

コンサルテーション症例は、2-3名の造血器病理を専門とする上級医に振り分けられ、1人が週に50-60症例程度を担当します。担当する造血器病理医はGiemsa標本を検鏡して免疫染色をオーダーし、翌日には免染標本が染め上がります。毎朝8時から行われる研究所内のカンファレンスが終了すると、難解症例を持った病理医たちがStein教授の部屋に集まり、Stein教授が次々に診断をつけていきます。その診断は鑑別診断を確実に除外してゆく、WHO分類に忠実に従うものです。ひとつの症例に20種類以上の抗体を必要とすることも希ではありません。更に反応性病変との鑑別（Bcl-2陰性濾胞性リンパ腫/リンパ濾胞過形成、やWotherspoon score 3 or 4の胃MALTリンパ腫疑い症例、皮膚リンパ腫疑いなど）が問題となる症例では、PCR法によるクロナリティー解析が行われます。免疫グロブリン遺伝子とT細胞受容体遺伝子の再構成、*t(14; 18)*再構成などを調べるものですが、行われる解析はBIOMED-2 Concerted Action BMH4-CT98-3935とよばれるヨーロッパ共同研究によって*Leukemia* 2003; 17: 2257に発表された

高精度 PCR クロナリティー解析法であり、4年後の *Leukemia* 2007; 21 に7カ国47施設の前方視的共同研究による評価が発表され、これによりパラフィン組織からのクロナリティー解析はリンパ腫診断の検査として確立しています。パラフィン切片から抽出されたDNAはmultiplex PCRにかけられたあと、GeneScanning (キャピラリーシークエンサーを用いたピーク解析) を行いモノクローナル増殖を検出します。解析結果は分子生物学研究部門を統括するPhDによってsign outされるレポートとなり病理医に報告されます。年間900件以上行われるこの一連の遺伝子解析は、洗練された遺伝子検査であり決して研究の片手間ではありません。

リンパ腫診断のディスカッションは基本的にドイツ語であり、理解できない部分も多々ありましたが、Stein教授は重要なことは英語でも言い直して下さって大変に勉強になりました。特に根拠に乏しい無理な診断を戒め、「低悪性度B細胞性リンパ腫であるが、WHO分類に該当する診断名を特定できない」や「免疫染色でも遺伝子解析でも腫瘍性病変との確証を得られないが、リンパ腫を完全に否定できないため経過観察を望む」といった診断が少なくないことに驚き、Stein教授の病理診断に対する謙虚な姿勢に感銘を受けました。これはover-diagnosisによって患者が不利益を受けることの重大性を深く認識し、Stein先生の診断が事実上、ドイツおよびヨーロッパ諸国における悪性リンパ腫症例の最終診断を担っている現状を認識されているが故と思われる。

留学して1年あまりが経ったころ、私にもコンサルテーション症例を割り当てていただけるようになりました。毎日7-8例程度、一週間で30-40例にもなり、これは私が日本で1年間に診ていたリンパ腫症例数に相当します。担当した症例は自分で検鏡して見当をつけ、自由に免疫染色および遺伝子解析をオーダーすることが許されていました。そして自分なりの診断をつけStein教授のところに持っていく、最終的な診断をつけていただきました。私はドイツ語の口述はできないため、恐縮ながらStein教授自身がその場で所見を口述してくださいました。Stein教授には大変なお手間をかけましたが快く私を指導してください、Stein教授とマンツーマンで行うディスカッションは大変勉強になりました。Stein教授はリンパ腫病理診断・研究のみならず一般病理診断にも深い見識をお持ちで、Stein教授とともに顕微鏡を覗けることは幸せなことでした。

(3) 悪性リンパ腫病理研究

Stein先生からリンパ腫病理診断に関する研究テーマを与えられました。それは「典型的なHRS細胞を認めないclassical Hodgkin lymphoma (CHL) の存在について」というものでした。研究所では年間約400例の新規のHodgkinリンパ腫 (HL) を診断し、過去10年間で5,000例以上の

HLが詳細な免疫組織化学の検討により分類されています。HL研究はCBF病理の伝統であり、Stein教授の業績の中心となるものです。Stein教授は1994年のREAL分類、2001年のWHO blue book、そして2008年のWHO blue book改訂版の編者として名を連ね、かつHLの項では序文を単独執筆するなど、悪性リンパ腫、特にHLの研究と病理診断に関して指導的立場にあります。

Stein教授から私に示されたのはCHLの1症例の標本でした。その症例は内部構造が破壊されたリンパ節病変内には種々の細胞浸潤とともにCD30陽性の異型リンパ球が散在しているもので、免疫染色の所見からCHLとして矛盾しないものでしたが、ただ一点違ったのは(しかし最も重要な点ですが)形態学的にHRS細胞と言える大型の腫瘍細胞が病変内のどこにも確認できないということでした。WHO blue bookでは、「CHLとはHRS細胞から構成されるモノクローナルなリンパ性腫瘍性病変である」と定義されます。この定義からすればHRS細胞の存在はCHL診断の必要条件であり、HRS細胞が確認できなければCHLと診断できないことになります。しかしStein教授が私に提示した1例では異型細胞はCD30陽性でPAX5には反応性B細胞よりも弱い核シグナルを示すというHRS細胞の染色性と合致するものであり、背景を含めたその他の組織所見もCHLとして矛盾しないものでした。Stein教授は過去の膨大なCHL診断経験の中で、免疫組織化学ではHRS細胞と矛盾しないが、形態学的にHRS細胞といえない非特異的な小型ないし中型の非特異的な異型細胞の増殖のみからなるCHL例が極めて希に存在すると考え、これを「small-cell variant of classical Hodgkin lymphoma (古典的ホジキンリンパ腫、小細胞亜型)」として、CHLの新たな形態学的亜型を提唱することを考えていました。

私とStein教授は過去4年間に診断されたCHL症例を全例(1,158例) reviewして57例(4.9%)のsmall cell variantを抽出し、臨床病理学的検討を加えてCHLの新たな形態学的亜型として提唱しました。このように病理診断に即した研究を担当させていただけたことは大変に光栄なことで、Stein教授をはじめ、研究に協力してくれた研究所の同僚達に感謝しています。

(4) ドイツ派遣研究員として

私は今回の留学成果をドイツ病理学会総会で口演するよう、ドイツ病理学会理事長から招待されていました。第92回ドイツ病理学会総会は2008年5月15-18日にベルリンで開催され、small cell variant of classical Hodgkin lymphomaについて発表いたしました。発表と質疑応答は英語でしたが、私のたつての希望により、発表後に特別に時間を頂いてドイツ語で謝辞を述べさせていただきました。以下に、私が述べた謝辞を原文のままご紹介いたします。

「Viele Menschen haben diese Arbeit freundlicherweise un-

terstützt. Zunächst einmal hat Prof. Harald Stein mir freundlicherweise die Gelegenheit geboten, an diesem Projekt teilzunehmen und dieses zu seinem Erfolg geführt. Prof. Anagnostopoulos und Dr. Joehrens waren so liebenswürdig, mir bei der Durchführung der Arbeit zu helfen. Ohne die Hilfe meiner Kollegen wäre es mir niemals möglich gewesen, dieses Projekt zu verwirklichen. Ferner möchte ich den Vorstandsmitgliedern der deutschen Gesellschaft für Pathologie Herrn Prof. Kirchner, Prof. Dietel und Prof. Stolte meinen besonderen Dank für ihre Unterstützung meiner Arbeit in Deutschland aussprechen. Hier in Deutschland hatte ich Gelegenheit, wertvolle Erfahrungen zu sammeln. Auf der Basis dieser unschätzbaren Erfahrungen möchte ich auch in Zukunft zur weiteren Entwicklung des akademischen Austausches zwischen Deutschland und Japan beitragen. (多くの人が大変な御厚意を持ってこの研究を支えてくださいました。まず何よりも、Stein教授は親切にも私にこの研究に参加する機会を与えてくださり、この研究を成功へと導いてくださいました。Anagnostopoulos教授およびJöhrens先生は私の研究遂行において親切なご指導をいただきました。私はこの同僚達の助けがなければ何も為し得なかったでありましょう。加えて私はここに、ドイツ留学をご援助いただいたことに対しKirchner教授(前理事長)、Dietel教授(理事長)、Stolte教授(財務担当理事)をはじめとするドイツ病理学会の諸先生方に深い感謝の意を表すものです。私はここドイツで大変に貴重な経験をさせていただきました。この素晴らしい経験をもとに、私はドイツ病理学会と日本病理学会の学術交流が今後ますます発展するよう寄与したいと存じます。) フロアからは温かい拍手を頂き、肩の荷が下りてほっとするとともに、今回のドイツ研究留学で一番の思い出となりました。

(5) 謝辞

長村義之先生、森茂郎先生、笹野公伸先生におかれましては、私に日本病理学会派遣研究員としてのドイツ留学の機会を与えていただき、御礼の言葉も見つかりません。埼玉医科大学総合医療センター病理部の田丸淳一先生には留学先としてStein教授をご紹介いただいたのみならず、留学に関する数々のご助言をいただきました。心より感謝申

し上げます。

最後にこの学術交流事業を支えてくださいました全ての日本病理学会会員の先生方に深く御礼申し上げます。

お知らせ

1. レーザ顕微鏡研究会第35回講演会

日 時：2009年7月14日(火)

会 場：理化学研究所(和光市)鈴木梅太郎記念ホール

連絡先：東海大学医学部教育・研究支援センター

細胞科学部門内 伊東丈夫

TEL：0463-93-1121(内2581)

FAX：0463-91-1370

E-mail：jslm-conference@sml.me.se.osaka-u.ac.jp

http://sml.me.es.osaka-u.ac.jp/jslm/

2. 第5回皮膚病理診断講習会(第10回皮膚病理診断研究会)について

テーマ：「メラノーマと鑑別の必要な病変」

日 時：2009年11月7日午後～8日14:00

会 場：東京医科歯科大学医学部附属病院

連絡先：東京医科大学医学教育学講座内 皮膚病理診断研究会事務局

担当：高見澤貴美子(泉 美貴秘書)

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-7-1

TEL：03-3342-6111(内2041)

FAX：03-5339-3785

E-mail：byoushin@tokyo-med.ac.jp

3. お詫び

4月号会報にてお知らせしました第7回浜名湖国際セミナーのテーマにつきまして、誤りがありましたのでお詫びして訂正いたします。

正：「子宮内膜、胎盤、卵巣の病理」

誤：「神経病理学の進展とスライドセミナー」

年会費は英文誌1月号、病理専門医部会費は「診断病理」の1月号に振替用紙が綴じ込まれております。未納入の方はお振り込みをお願いいたします。お振り込みが遅れますと、一時的に送本を休止させて頂くこともございますので、ご留意下さい。

郵便振替口座 番 号 00130-4-32817

加入者名 社団法人日本病理学会

正 会 員 各 位

平成 21 年 6 月 20 日
理 事 長 長 村 義 之
選挙管理委員長 加 藤 洋

社団法人日本病理学会役員選挙について（公示）

平成 22 年度 /23 年度役員改選につきお知らせいたします。

本学会の現役員は、今年度末をもって任期満了となります。新役員は、本学会「定款」ならびに「役員選挙関係諸規定」に従い、正会員の選挙（郵送による投票）によって選出の上、理事 19 名（地方区選出理事 7 名、全国区選出理事 12 名〔口腔病理部会長 1 名を含む〕）、監事 2 名が総会で選任されます。

次期役員（平成 22 年度 /23 年度の理事・監事）選挙を以下の要領で行います。

記

○選挙方式：

- (1) 役員（理事・監事）の選挙は、立候補の届出にもとづき被選挙人名簿が作成され、さらに立候補者のうち希望者は所信表明を発信できます。これをまとめ、一定の時期に会報、学会ホームページ等で掲載し、周知します。
- (2) 理事長の選出は、上記で選出された理事の中から正会員の投票によって行われます。理事長候補者（(1) で選出された理事）の所信表明については、役員選挙の場合と同様に希望者は発信できます。これをまとめ、会報、学会ホームページに掲載します。

○立候補者の選出区分：役員立候補者は、選出区分を明示して応募していただきます。なお、重複した区分に立候補する事はできません。

選出区分 1：地方区選出理事

選出区分 2：全国区選出理事

選出区分 3：口腔病理部会長兼全国区選出理事（歯科医師免許所有者）

選出区分 4：監事

○被選挙資格者：役員は「就任時の年齢が満 63 歳以下の正会員」と規定されています。今回は、昭和 21 年 4 月 2 日以降に生まれた正会員が被選挙人資格者となります。

○役員立候補者募集要領:

1. 名簿登載: 立候補される方は、氏名、所属及び選出区分を明示した上で下段の書式に記載し、本学会事務局まで書留で郵送してください。

・応募締め切り 理事: 7月16日(木)(当日消印有効)

監事: 7月23日(木)(当日消印有効)

・応募関係書類送り先: 日本病理学会事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷2-40-9 ニュー赤門ビル4F

2. 所信表明(希望者のみ): 400字以内の所信をe-mailにて事務局あてお送りください

(文字数超過の場合は、超過分をカットします)。

・提出締め切りは、7月31日(金)

・所信表明送り先: E-mail: jsp-admin@umin.ac.jp

○選挙実施要領:

1. 役員(理事・監事)選挙:

・被選挙人名簿、投票用紙等を正会員に送付: 8月20日(木)予定

・所信表明の掲載: 会報8月号、学会ホームページ

・投票締め切り: 9月9日(水)(当日消印有効)

2. 理事長選挙:

・理事長候補者名簿、投票用紙、所信表明(希望者のみ)を正会員へ送付: 10月9日(金)予定

・所信表明の掲載: 会報10月号、学会ホームページ

・投票締め切り: 10月28日(水)(当日消印有効)

社団法人日本病理学会役員立候補届

社団法人日本病理学会平成22年度/23年度役員選挙に立候補いたします。

会員名: _____ (会員番号) _____

所 属: _____
(15字以内: 被選挙人名簿登載用)

区 分 (一つを選んでください)

選出区分1: 地方区選出理事

選出区分2: 全国区選出理事

選出区分3: 口腔病理部会長兼全国区選出理事(歯科医師免許所有者)

選出区分4: 監事

平成21年 月 日

社団法人日本病理学会正会員

署 名 _____

2009 年度

病理学教育セミナーのお知らせ

IAP 日本支部主催, 日本病理学会後援

日 時: 平成 21 年 11 月 21 日 (土) 9:00 ~ 17:30

場 所: 国立オリンピック記念青少年総合センター (東京・代々木)

教育シンポジウム 9:00 ~ 11:45

主題: 「肺癌および中皮腫の病理診断 —— 2009 update」

モデレータ: 野口 雅之 先生 (筑波大学)

石川 雄一 先生 (癌研究所)

- | | |
|--------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. WHO の腺癌分類改訂について | 野口 雅之 (筑波大学基礎医学系病理学) |
| 2. 肺癌の進展に係わる病理診断 - 特に胸膜因子について | 大林 千穂 (兵庫県立がんセンター病理診断科) |
| 3. 神経内分泌性を有する肺癌の病理診断 | 廣島 健三 (千葉大学医学部病理学) |
| 4. 神経内分泌性腫瘍の未来 | 石川 雄一 (財団法人 癌研究会癌研究所病理部) |
| 5. 免疫組織化学的染色を中心とした中皮腫の鑑別診断 | 武島 幸男 (広島大学大学院病態情報医科学講座病理学) |
| 6. Malignant mesothelioma: cases difficult to diagnose (tentative title) | Mark, Eugene J. (Professor of Pathology, Harvard Medical School, Director of the Autopsy Service, Department of Pathology, MGH) |
| 7. 悪性中皮腫の早期診断 | 辻村 亨 (兵庫医科大学医学部病理学〈分子病理部門〉) |

◎当日はご自由にご参加下さい。(会場費 3,000 円, ハンドアウト代含む) その時に病理専門医の更新に必要な参加証をご用意いたします。5 単位が得られます。

スライドセミナー 13:15 ~ 17:30

1 時限目 13:15 ~ 15:15 *印は新規のものです。

送付資料の注意事項

*A-1 唾液腺腫瘍の病理 — 新 WHO 分類を踏まえて —	長尾 俊孝	東京医科大学病理診断学	DVD (Windows, Mac に対応)
B-1 肺の外科病理 update	中谷 行雄 松原 修	千葉大学大学院医学研究院診断病理学 防衛医科大学校病態病理学	DVD (Windows, Mac に対応)
C-1 腺腫瘍性病変の病理	諸星 利男	昭和大学医学部第一病理学	DVD (Windows, Mac に対応)
D-1 悪性リンパ腫関連疾患	吉野 正	岡山大学大学院病理・病態学	DVD (Windows のみ対応)

2 時限目 15:30 ~ 17:30

*A-2 神経系腫瘍 (中枢系および末梢神経)	広瀬 隆則	徳島県立中央病院病理診断部	DVD (Windows, Mac に対応)
B-2 骨髄の病理 (MDS など)	大島 孝一	久留米大学医学部病理学	DVD (Windows, Mac に対応)
C-2 子宮内膜症とその関連腫瘍	本山 悌一	山形大学医学部人体病理病態学	DVD (Windows, Mac に対応)
D-2 甲状腺腫瘍, 新 WHO 分類を中心として	加藤 良平	山梨大学大学院人体病理学	DVD (Windows のみ対応)

【注意事項】 事前の送付資料はバーチャル・スライド (DVD-R) となりますが, コースにより対応するパソコンの OS が違います。D-1, D-2 コースは, Windows のみに対応いたします。

病理専門医の資格更新単位として 10 単位が得られます。別添葉書にて申し込み下さい。定員超過コースは抽選となります。

受講料: 1 コース IAP (国際病理アカデミー) 日本支部会員 7,000 円, 非会員 10,000 円

連絡先: IAP 日本支部教育委員長 内藤 善哉
〒113-8602 東京都文京区千駄木 1-1-5
日本医科大学病理学講座 (統御機構・腫瘍学)
TEL 03-3822-2131 内線 5232

IAP 日本支部事務局 常任幹事 根本 則道
〒173-8610 東京都板橋区大谷口上町 30-1
日本大学医学部病態病理学系病理学分野
TEL 03-3972-8111 内線 2256